眞鍮器獻納[[1]](#footnote-1)

戰爭は眞鍮を要すると、

愛國班長はいつて歸つた。

眞鍮器。何回も獻納して餘つたもの。

それは祭器と亡き親たちの食器と

わたしが嫁に來る時にもって來た

夫の食器とわたしの尿器盥と。

どんなことがあつても

家の者どもが路傍に迷ふことがあつても

手離せぬ祖先の祭器と

婚禮の紀念と、いとし子らの紀念と。

しかし、國には換へられぬ。

はい、はい、殘らず差上げます。

　　　　（朝鮮文人報國會・提供）

1. 香山光郎。『朝光』1944年10月 [↑](#footnote-ref-1)